

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	官民協働で地方道路が整備かつ維持管理され、市場や社会サービスへのアクセスを持続させることにより、農村部住民のくらしが豊かになる。
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>2011年の文民政権成立後、飛躍的に発展を遂げるミャンマーでは主要都市を繋ぐ道路建設、整備が急速に進められている。一方で国民の8割が住むと言われる農村地方では道路の殆どが未舗装であり、雨季になると泥沼化または冠水する。その為多くの村民が学校、病院など社会サービスへの道が遮断され不便を強いられている。</p> <p>農業・畜産・灌漑省管下にある地域開発局が地方道路補修を実施している。しかし道路補修予算が少額である上に建設会社に工事を発注している為、工事単価が高く道路補修を実施できる地域はほんの一握りである。</p> <p>行政主導での道路整備を期待できない中、僧侶を核とした多くの住民グループが自発的に道路補修を行っている。しかし、資材購入費等の負担や技術面での知識が不十分であり継続的に道路補修を実施する事が困難な状況である。</p> <p>2013年から申請団体が住民グループと共に実施した道路補修工事では、地域開発局が実施する工事と比べ2~3割の工事費を削減できた事例がある(道路状況、条件によって割合は異なる)。同局はこの結果に注目し、今後建設会社が行う機械施工のみならず、道路状況(悪路の度合い)によっては、住民が行う人力施工を採用する事で予算を有効利用できる見込みがあると認識している。</p> <p>行政と地域住民が連携し人力施工での道路整備を効果的に実施するには、同局との窓口となる道路補修実施・監理能力を持つ住民組織が必要である。そこで本年度は、H25~27年度まで申請団体が道路改修事業を実施してきた7地区のうち3地区において、各地区の代表者で構成されたCSO(Civil Society Organization)の結成とその能力強化を、新たに実施する。本年度のCSO結成及び研修はコミュニティ組織能力の高いエーヤワディー地域、マグエ地域、ネピドー連邦領の住民を対象とする。上記CSOメンバーは主にH25~27年度のN連事業で研修を受けた住民の中から選抜する。</p> <p>CSO結成及び研修に加え、H25~27年度に実施したN連事業同様、地域開発局と締結したMOU(Memorandum of Understanding)記載の事業地(エーヤワディー地域、シャン州、マグエ地域)にて、新規の村で道路整備技術普及研修を行う。また、H25~27年度の事業実施地(エーヤワディー地域、カレン州、ネピドー連邦領、シャン州、マグエ地域)においてもコミュニティ維持管理計画研修を行い、コミュニティによる道路の維持管理体制確立を目指す。</p> <p>ネピドー連邦領地域開発局は2017年度の住民向け職業訓練事業で、本団体が導入・実施してきた道路補修技術の授業を組み込む事を決定している。本事業は、道路補修技術普及のみならず雇用機会創出に寄与する事業としても期待されている。</p> <p>H25~27年度のN連事業で得た主な成果を、別途添付の「申請書補足資料_1」にまとめる。外務省「対ミャンマー国別援助方針(平成24年4月)」の中の経済協力方針の重点分野「国民の生活向上のための支援(少数民族や貧困層、農業開発、地域の開発を含む)」に、寄与することが予想される。「対ミャンマー 国別援助方針(平成24年4月)」の中で経済協力方針の重点分野として「国民の生活向上のための支援(少数民族や貧困層、農業開発、地域の開発含む)」が挙げられている。</p>

また、本事業は「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 1 : あらゆる場所、あらゆる形態の貧困を終わらせる (細分化ターゲット 1.4)、目標 9 : 耐久的なインフラストラクチャー構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る (細分化ターゲット 9.1, 9.a) に該当する事業である。

・本申請事業対象地における事業実施の必要性

【道路補修技術普及び維持管理計画研修 (下記・活動 1 実施地)】

1. エーヤワディー地域・ピャポン地区

ケーヨンタン村

事業道路は村から病院や学校、市場へ繋がる道である。

粘性土上の道路で雨季になると酷くぬかるみ、歩行やバイクの通行が困難となる。毎雨季后に住民らにより補修工事が実施されているが、それでも人、自転車、バイクの転倒事故が相次ぎ、有効な道路補修技術を求められている。

本事業地の施工には H25~27 年度に本事業で研修を行ったチョンチャイ、カンター、ミンラス村の代表者 (CSO メンバー) が主に施工監督を務める。

2. シャン州・ペコン地区

ノットン村、ハンピュー村

山岳地帯の中に位置し、事業道路はメインロードと 4 つの村を繋ぐ道である。道路全体が粘性土で形成されており雨季になるとぬかるみが酷く、車両、バイクや自転車は通行不可となる。住民の食物や生活用品を運ぶトラックはタイヤに雪山用のチェーンを巻きつけて通行を試みる。しかし、ぬかるみに嵌る事も多く、またチェーンによって表層土が削られ通行する度に道路が激しく損傷を受けている。

前年度に本地域で 240 m の試験施工を行い経過も良好である。現在ペコン地域開発局が建設会社に発注し行う本地域の道路補修工事は 1 m あたり約 3,500~4,200 円だが、住民グループが本団体の道路補修技術を使用し工事を行うと 1 m あたり 2,500~3,000 円程度まで工事費が削減できる。

コミュニティでの活動経験が少なかった本地域の住民だが前年度・本事業の研修を通して団結力が高まり自立の心が芽生えている。道路補修技術の普及と共にコミュニティ能力強化研修にも引き続き力を入れる。

3. マグエ地域・シンバウウエ地区

タマ村

タマ村から幹線道路までは約 4 km の未舗装道路で繋がっている。その内の約 2 km は 20 箇村以上の村が使用する道路 (道路 A) である。幅員も広く大型トラックの通行量も多い。道路 A は当地区の地域開発局が 2016 年 9 月に補修工事を実施する事が決定している。タマ村は道路 A から枝分かれした道 (道路 B) を更に約 2 km 進んだ場所に位置する。

道路 B は数多くの牛車が通行する為、雨季に入ると道路の損傷が激しくバイク、車両は通行不可となる。急病人が出た際は患者を担架に乗せ人力で 2 時間かけて病院まで搬送する。過去には処置が間に合わず搬送中に命を落とした村民もあり悪路が生み出す問題は大変深刻である。住民グループと僧侶が応急的に道路補修を行うも牛車の通行により数日で道路状況は悪化する。当地域でも役立つ有効な道路補修技術を習得したいと住民グループからも強い要望がある。

【CSO 結成、研修実施地 (活動 2 実施地)】

1. エーヤワディー地域・ピャポン地区①チョンチャイ村, ②カンター村, ③ミンラス村

2. マグエ地域・シンバウウエ地区・①ミンカン村

3. ネビドー連邦領・レイウエイ地区①ゼーコン村, ②タロップン村, ③シュエチン村

いずれも H25~27 年度・申請団体実施 N 連事業の事業実施地域である。各地区で、1 つの道路整備に特化した CSO (Civil Society Organization) を結成す

	<p>る。複数村から適性を見て選抜されたリーダー、リーダー補佐、エンジニア、エンジニア補佐、会計係で構成される。</p> <p>官民連携での道路整備には地域住民側に、道路補修計画、予算作成、資機材調達、技術指導が可能で持続的な組織運営能力を有する、行政との窓口となる組織が必要である。これまでの事業では、村単位では組織運営能力を持つリーダー、技術力の高い人材を揃えられないことが課題であった。そこで、各村より優れた能力を持つ人材を選抜し、合同で各地区を代表する CSO を結成する事で上述の課題が解決され、将来的に行政と連携した農道整備が円滑に進むと予測される。</p> <p>【維持管理計画研修及びコミュニティ組織強化研修（活動3実施地）】</p> <p>1. マグエ地域・チャウ地区・チャウテー村</p> <p>2. カレン州・①パアン地区・ラカナ村,ユワカレイ村、②ラインボエ地区・シングレー村落地域</p> <p>H25～27年度のN連事業地である。本年度は大規模な道路補修事業は実施しないが維持管理体制を確立する為にコミュニティ組織強化・維持管理計画研修を継続的に実施する。</p> <p>なお、当事業は3年間の計画であるが、事業実施及び契約は単年度で行うこととする。</p>																																													
(3) 事業内容	<p>現地の農村開発を行う NGO、Dear Myanmar と連携し事業を行う。住民参加での農道整備事業に不可欠なコミュニティへの事業説明、資機材調達時の交渉や段取りを担当する。申請団体が事業を統括し、道路整備に関する技術指導や資金管理と報告書のとりまとめを行う。</p> <p>研修内容については以下のとおりである。</p> <p>活動1：道路整備技術普及及び維持管理計画研修</p> <p>※各研修の詳細内容については別途添付「申請書補足資料_2」参照。</p> <p>【活動1 実施地一覧表】</p> <table border="1" data-bbox="448 1301 1460 1693"> <thead> <tr> <th>地域/州</th> <th>地区</th> <th>村名</th> <th>整備距離(m)</th> <th>裨益者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. エーヤワディー地域</td> <td>ピャボン</td> <td>① ケーヨンタン (Keen Yoon Tang)</td> <td>1,500</td> <td>4,300</td> </tr> <tr> <td>2. シャン州</td> <td>ペコン</td> <td>② ノットン (Not Tone)、 ハンピュー (Hampyu) ※ノットンとハンピュー村間の道路整備を両村民と実施する。</td> <td>1,200</td> <td>5,000</td> </tr> <tr> <td>3. マグエ地域</td> <td>シンバウウエ</td> <td>③ タマ (Htauk Ma)</td> <td>2,300</td> <td>4,000</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="4">地域開発局の推奨地域</td> </tr> </tbody> </table> <p>活動1-1：グループリーダーへの施工に関する研修</p> <p>各村でグループリーダーとその補佐に対して、道路整備技法の研修を行う</p> <p>【グループメンバー研修参加人数と研修日数】（活動1-1, 1-2）</p> <table border="1" data-bbox="448 1823 1460 2083"> <thead> <tr> <th>村名</th> <th>ケーヨンタン</th> <th>ハンピュー</th> <th>タマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リーダー(人)</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>リーダー補佐(人)</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>参加者(人)/日</td> <td>50</td> <td>20</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>工事研修日数合計(日)</td> <td>90</td> <td>100</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>	地域/州	地区	村名	整備距離(m)	裨益者数	1. エーヤワディー地域	ピャボン	① ケーヨンタン (Keen Yoon Tang)	1,500	4,300	2. シャン州	ペコン	② ノットン (Not Tone)、 ハンピュー (Hampyu) ※ノットンとハンピュー村間の道路整備を両村民と実施する。	1,200	5,000	3. マグエ地域	シンバウウエ	③ タマ (Htauk Ma)	2,300	4,000	備考	地域開発局の推奨地域				村名	ケーヨンタン	ハンピュー	タマ	リーダー(人)	5	6	5	リーダー補佐(人)	5	6	5	参加者(人)/日	50	20	40	工事研修日数合計(日)	90	100	120
地域/州	地区	村名	整備距離(m)	裨益者数																																										
1. エーヤワディー地域	ピャボン	① ケーヨンタン (Keen Yoon Tang)	1,500	4,300																																										
2. シャン州	ペコン	② ノットン (Not Tone)、 ハンピュー (Hampyu) ※ノットンとハンピュー村間の道路整備を両村民と実施する。	1,200	5,000																																										
3. マグエ地域	シンバウウエ	③ タマ (Htauk Ma)	2,300	4,000																																										
備考	地域開発局の推奨地域																																													
村名	ケーヨンタン	ハンピュー	タマ																																											
リーダー(人)	5	6	5																																											
リーダー補佐(人)	5	6	5																																											
参加者(人)/日	50	20	40																																											
工事研修日数合計(日)	90	100	120																																											

活動 1-2：実施工とグループメンバーへの施工に関する実地研修

申請団体と連携団体エンジニアの指導のもとで道路補修の実施工を通して道路補修技術を習得する。

活動 1-3：維持管理計画研修及びコミュニティ組織強化研修

事業終了後もコミュニティが継続して道路補修を実施できる体制づくりを行う。

活動 1-4：各地区内のコミュニティ、僧侶へ向けた現場視察、道路整備技法についての研修

各地区の住民向けに道路補修、維持管理計画についてのワークショップを実施する。研修後、研修参加者が各自の村で本研修で習得した技術を取り入れ道路補修活動を行う事を目的とする。研修参加者は各事業地の周辺村代表者、1事業地あたり50名、1日間の研修を実施する。尚、各地域において工事期間中に近隣コミュニティより現場視察の依頼があった際には随時受け入れを行う。

活動 1-5：交通安全研修

道路補修後道路状況が良くなる事から、自動車やバイクドライバーの走行速度が増し、交通事故に繋がる事も予測される。この状況を回避する為安全運転を促す標識や対策（スローダウンの設置等）を取ると共に学校や僧院等においても交通安全の重要性を訴える研修を行う。

活動 2：道路整備に特化した CSO (Civil Society Organization) の結成、研修**【活動 2 実施地一覧表】**

地域、州	地区	村	研修人数
1. エーヤワディー地域	ピャポン	①カンター (Kantah) ②チョンチャイ (Kyonkyaik) ③ミンラス (Hminla Su)	15
2. マグエ地域	シンバウウエ	①ミンカン	6
3. ネピドー連邦領	レイウエイ	①ゼーコン (Zay Kone) ②タロップイン (Ta Loat Pin) ③シュエチン (Shwe Kyin)	14

活動 2-1：各地区での道路整備に特化した CSO の結成

H25～28 年度の本事業・各事業地選抜メンバーから構成され、地域開発局と協働での地域道路整備事業実施を目指す。

※既にエーヤワディー地域・ピャポン地区に関しては①カンター②チョンチャイ③ミンラス村の代表者で、道路整備に関して行政と連携するための CSO 結成が進められている。

活動 2-2：CSO 運営管理強化研修

道路補修工事を担当する団体として指導的な立場となりうるよう技術面、運営管理について研修する。

活動 2-3：CSO メンバー実地研修

本年度事業地にて本団体、パートナー団体のエンジニアより実際の施工現場で現場指導等、資機材選定等の研修を受ける。

活動 3：コミュニティ組織強化研修及び維持管理計画研修

地域、州	地区	村	備考
1. マグエ地域	チャウ	①チャウテー	H27 年度事業地

	2. カレン州	パアン	①ラカナ ②ユワカレイ	H25 年度事業地
	ラインボエ		①シンガー村落地域	H26 年度事業地
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>H25～27 年度の N 連事業地である。コミュニティ組織強化・維持管理計画研修を継続的に実施する。維持管理体制を確立させ、将来的には CSO 結成を目標とする。</p> <p>活動 4：地方政府、地域開発局 (DRD) エンジニアへ各事業地の報告や道路整備技法共有 本事業で行った研修内容の報告、使用した道路補修技術について主に地域開発局職員、エンジニアへ共有する。</p> <p>活動 5：ミャンマーで活動する他援助団体への研修 「土のう」工法など住民参加型未舗装道路整備手法の研修（当該 NGO の活動地での研修または本申請事業での道路整備現場の見学機会提供）。 研修参加者 20 名・1 日間の研修を実施予定。主にミャンマー国内で活動する他 NGO 団体向けに実施予定。</p> <p>道路整備技術の普及 本事業で研修を受けたコミュニティが事業終了後も自発的に道路補修、維持管理工事を行っている。コミュニティの組織能力も高まり、他支援団体から新たな事業を獲得するなど本事業がきっかけとなり地域が活性化している。 またマグエ県・シンバウウエ地区の地域開発局では同局が国に申請し行う道路補修工事の一部に土のう使用による道路補修技術を取り入れる事を決定した。農村コミュニティだけではなく、行政が実施する工事に本技術が採用された事は今後ミャンマー国内において本事業で普及する道路補修技術が標準工法として採用される可能性も十分にある。 官民連携による道路補修工事 道路補修に特化した CSO を結成し、彼らが工事を行政（地域開発局）から受注できれば道路補修工事費用の削減が見込まれると共に、CSO メンバーの収入向上も期待できる。 また、各コミュニティが道路整備技術を習得し整備後も定期的に維持管理工事を行えば、地域開発局による同道路の補修頻度が減り、道路整備予算がより多くのコミュニティに対して利用されることに繋がる。</p>			
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>成果 グループリーダーとその補佐係が、現場指導、資機材管理、施工記録報告ができるようになる。 住民グループが道路整備・維持管理計画を習得する。 市場、学校、病院等へのアクセスが改善する。</p>		<p>成果を測る指標 計画と実績の比較、施工記録帳票、施工監督状況の視察。 専門家、現地エンジニアが現場監督をする中でリーダーや住民の働き、施工品質を確認し判断する。 ケーヨータン 1.5km、ノットン、ハンピュー村 1.2km、タマ 2.3km、施工前後の写真と施工記録 ①通行車種、走行時間調査 ②登校可能日数（施工前後で調査し、比較する。） ③出荷回数</p>	

	<p>住民グループが道路整備・維持管理計画、活動を持続的に行い村内の道路状況を自発的に改善、維持できる。</p> <p>他 NGO 団体の活動地でも道路補修活動が実施され、活動状況、成果が改善される</p>	<p>実際にコミュニティが行った道路補修、維持管理活動件数（合計 2 回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際にコミュニティ（合計 2 回）、又は NGO 団体（合計 1 回）が実施した道路補修工事件数 ・活動状況、成果の改善（農作物の出荷回数、登校可能日数、病院への搬送時間減少等）
	<p>行政と CSO、住民グループの協働体制が促進される。</p> <p>行政実施の地方道路整備件数が増加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政（地域開発局、県庁職員）現場視察件数（合計 3 回） ・行政と CSO との、道路補修実施に関する協議回数（合計 3 回） ・上記協議の結果、連携して実施される道路補修やその研修実例件数（合計 1 回）